

## 第 4 回検討会議における主な意見等

## 第4回検討会議における主な意見等

第4回会議検討委員会では、少人数クラス（仮称）の設置、報告書（案）について各委員から以下のような意見がだされました。

### （1）少人数支援クラス（仮称）の設置及び職員の加配について

- ◆比較的軽度の知的障害及び情緒面・行動に課題のある幼児を想定して、受け入れた後にクラスを作るということは、最初から担任を設置しないということなのか。また、仮に10名が特別な配慮が必要との判断であっても、定員の5名以外は通常学級の在籍になるのか。
- ◆視察されたような私立幼稚園などに設置されている特別支援クラスがさまざまな課題によって広がっていかないという課題があると思うが、そのようなニーズがあるのであれば、私立幼稚園に特別支援クラスが広がっていくよう、行政としてそこを支援することを考えられないか。市立幼稚園だけの受け入れで足りるのか疑問。
- ◆通常のクラスで少人数体制とすることがよいのではないか。集団の中に入ってモデルとなる子供たちと一緒に生活することで、生活やことばがぐっと伸びていく。入園を申請する秋の時点で、保護者が子供をどうとらえるのか未知数。通常学級で過ごして、周りの子どもと一緒に自己主張して、かかわり合えることが理想。空き教室を活用して、集団で過ごすことができないときに個別に過ごすなど。
- ◆私立保育園の中でも特別支援クラスを設置しているが人材、資金の課題についてなかなか受け入れられないというのが現状。情緒面・行動面で課題のある幼児を想定しているようだが、3歳の入園時にどれだけの把握ができるか疑問。どのような基準で4・5歳で通常クラスに移行するのも疑問。特別支援クラスという大きな枠でなく、通級クラスとして支援ができないのか。
- ◆たくさんの方が希望されたときに園長はどう判断するのか。特別支援クラスを設置する私立幼稚園でも断るのが厳しいという話であったが、見極めに苦慮されるのではないか。
- ◆少人数クラスの構想とはちがうかもしれないが、障害の重い子どもや私立では難しい、公益に資するような、特に特別支援における教育的ニーズのある幼児を受け入れるような体制の整備が必要ではないか。
- ◆幼稚園探しをしていて先日1件断られた。加配が必要な幼児がすでに何名かいて、人員確保が難しい、幼稚園の教諭が特別な支援を必要とする子どもへどのような教育をしていいかわからないといった理由。重度の障がい児は支援や教育について複雑なので、特別支援教育を市立幼稚園が熊本市のコア幼稚園として教育システム、園の経営方法などを確立し、私立幼稚園に広めていただけないか。
- ◆前回までの議論で、将来的な方向性として、私立幼稚園等の受け入れが難しい重度の子どもを受け入れる体制の整備、人材育成、早急には通常学級への就学を前提にした通級指導教室の拡充、小学校との接続などについて検討・整備していく必要があるという議論であった。視察された特別支援クラスを設置する私立幼稚園に断られた子どもの受け入れを想定しているのは分かるが、3歳児の入園前に特別支援学級を希望するということは重度の子どもであろうと思う。また、生活の中で打診していくということだが、小学校でも通常学級に入って、支援学級がいいのではというのは半年から1年かかる。現実的にできるのか。現場で保護者への働きかけができるのか。特別支援クラスを設置する私立幼稚園へは支援クラスを目指してやってくる。自分の子どもに障害があるというのは明白である。療育手帳はどのくらいなのか。小学校ではどこに行くのか。4歳児、5歳児になって通常学級への進級が難しい場合でも、通常学級にいしくなく無理に受け入れるようなことにならないか。最初から一緒にしておいて、通常のクラスに手厚い支援を当てておくことがインクルーシブの考え方ではないか。3歳児の15名に担任1名、少人数支援クラス5名程度に担任1名＋加配職員とあるが、そこを拡充する体制をつくったほうがいいのではないか。

担任＋加配職員では2名、視察された特別支援クラスを設置する私立幼稚園よりも体制が薄い。選考に落ちた人がくるとなると、私立の支援クラスで受け入れられなかった人がくるだろうから、せめて2対1以上。5名受け入れるのであれば3名体制が必要ではないか。

◆昨年、特別な配慮が必要な3歳児がいた。1年間様子を見てもやはり支援が必要であると感じ、ウエルパル（子ども発達支援センター）につながり、3歳から4歳にかけてとても伸びたから4歳から5歳は大丈夫と言われたと保護者はおっしゃったが、のちに紙を見せていただいたところ支援が必要だと書いてあった。このように保護者にとっては我が子の発達に課題があることについて受け入れるのに時間がかかる。また、発語できない、かんしゃくがあるなど全部で4人いたが、おそらく支援が必要な子どもだと思ふ。私立の支援クラスの幼児は療育手帳 B2 と言われたが、保護者が色々な気持ちを受け入れて、考えてそうなったと思ふ。3歳で支援が必要な子どもは4歳、5歳でも支援が必要なことが多く、3歳だけでなく、4歳、5歳も支援をし続けることが必要で、なんとか小学校につなげたいと思っている。

◆視察された特別支援クラスを設置する私立幼稚園は認定こども園なので、幼児が0歳1歳2歳の頃から園に通っており先生方はずっと見てきている。市立幼稚園は3歳からなので、そこに至るまでの見極めが難しいのではないか。

◆支援クラスと、3歳児クラスに支援員を配置するのが分かりにくい。療育にいている子どももいて、2日間は療育にいてから幼稚園に登園する子もいる。例えば手先を使った訓練等を療育で支援してもらい、並行して集団生活の友達や先生とのやりとりの中ですごく伸びる。中軽度の障がいのある幼児への関わりは、療育との連携、職員加配による支援が必要ではないか。例えば、小学校は知的障害で支援学級だと、学年を1学年落として勉強したりするが、幼稚園はあまり変わらない。別のことをするというより集団の中で個別の手厚い支援が必要。市としては、通級指導教室の拡充と、重度の障がいのある幼児の受け入れについて、今回の少人数支援クラスとは違う形で必要だと思ふ。

◆新たな枠組みを作ることで人数を増やし支援を手厚くするとの話であったが、6園全部見てまわったが、担任不在もあるのが現状。

◆事務局の質の向上を考える気持ちは分かるが、軽度の障害のある4歳5歳についての所属感が課題。〇〇ちゃんは通常クラス、〇〇ちゃんは卒園まで支援クラスという、所属感をどうするのか。特別支援クラスを設けたとしても、ほとんど通常クラスにいる幼児もいる。

◆本日ご欠席されている委員の意見を紹介する。私立の園としてはこれまでも各園の努力や団体等による様々なアプローチにより、毎年体制の整った園が増加している状況で、全体として更なる受け入れ増や質の向上を図ることで、多様で包括的な、安心して子どもが育ち、子どもを育てられる社会の実現に今後も貢献して参りたい。

しかしながら、加盟園への聞き取り調査では、特別支援クラスでの受け入れを増やしてはいるものの、施設面や人的な環境にも限界があり、中には希望者の増加に追いつかず10名以上の希望者をお断りしなければならない状況もあり、その高いニーズに応えるためにも何とか受け入れを増やせるよう常に努力するとともに、受け入れ増や学級の新設をより多くの園に訴えていただきたいとの声も聞かれた。

そこで、中長期的な計画としては、概ねこれまでのご議論の通りであり、併せて、短期的な対応としては、きめ細やかな対応を可能とする少人数のクラス等の設置やその進級に当たっては一人ひとりの個性や発達に合わせ、必要に応じてクラスが選択されることが望ましいのではないか、といった声も一部聞かれた。

同時に、中長期的には委員会でご議論・指摘されてきたように現状とは環境が変化することが予想されることから、設置する場合には、クラスのあり方（内容・質）、縮小や廃止についての5年見直し等の要件付与も検討が必要ではないかと考える。

## どのような形であれば、事務局が提案する少人数支援クラスの設置が可能か。

◆もし、私立の支援クラスに入れなかった幼児が、市立幼稚園の少人数支援クラスを目指して来るのであれば、各学年2名などの枠を設定し、3学年を通した学級であればよいのかと思う。その子供たちが通常学級に入ることができれば、幼児2名に1名の支援員をつけて一緒に移行するなどはどうか。しかし、園長判断で幼児を選考するというのは、胸が痛くなることが多い。今現状では一人も断ったことはないが、担任のことを考えるとどうなのか。

◆新たな視点を作った提案だが、ことばの教室やあゆみの教室の運営を工夫して同じような手厚い支援ができないか。ことばの教室とあゆみの教室を1教室にまとめるのではなく2教室のほうがいい。新たなシステムをつくるより、通級を拡充していく中で支援していくという方向性がよいのではないか。

◆あゆみの教室、ことばの教室をグレードアップしていくという案はどうか。

◆特別支援教育をどう推進していくかという基本理念を考えたときにどうあるべきか、その観点からいくと、本当は、現在、私立の幼稚園に設置してある特別支援クラスが果たしてこれからのインクルーシブ教育の中にあるのか検討していくところから始めなければならないのではないかと。特別支援教育の推進として、市立がやっていることはモデルとなることにもなり、私立に拡充していくというメッセージを出していくことになる。新たなシステムを検討していくときに、どのような形がよいのか考えると、3歳児の入り口でなく、5歳児など出口支援を中心にしてはどうか。園の中で生活していくなかで就学への困り感について、少人数で就学に必要な戦略集中クラスなど、発達を見ていく中で就学のため集中的にやっていく。

5歳児の25名の中で就学につなぐ就学支援のためのクラスとして、あゆみの教室、ことばの教室よりは支援が必要な枠をつくり、少人数指導をやることのほうが意味がある。

◆支援クラスはいいアイデアと思う。また、療育の事業所との連携ができるといいと思う。報告書に、重症心身障がい児と医療的ケア児について連携、とあるが、発達障害児についても連携が望ましい。療育事業所では療育活動と保育所等訪問支援がかなり前から実施されている。支援レベルはあるかと思うが、事業所の数は今や無視できないほど増えており、優れた実践もなされている。活用し、制度として少しずつ取り込んでいくのがよい。報告書にもそのような文言がほしい。

◆公立幼稚園に途中入園した方の中には、少人数で手厚い教育が受けられるのではないかと、専門的な教育＋少人数で手厚いというのを望んできている。碩台幼稚園では在園の子どもたちには年中で全員がことばの教室を体験する。在園の子どもたちが、就学に向けて手厚い支援や指導、体験ができるということが大事。

◆年長になって所属が変わるという考え方について、どうしても難しいと思う。まず保護者が受け入れられるか。移行支援シートを作るということについても、拒否感のある保護者は多い。子どもたちの所属が違つとなると、5歳児だとある程度わかっておりプライドもある。クラスを分けて指導するのは想像できない。人が配置されればクラスを分けなくてもできるのではないかと。確かに支援クラスを求めている子どももいるが、そこは難しさがあるのではないかと。

◆保護者の立場から言うと、一般的には医療機関や検査が必要なので何の根拠もないのに支援クラスに移つてというのは難しい。

5歳から別のクラスに分けるということは、先生たちは子どもの状態がよくわかるかもしれないが、親はうちの子は普通だと思っているので園長先生からあなたのお子さんは特別な支援が必要だと言われても受け入れられない。

5歳というと自分の意思もあるし、自分だけ違うクラスに行くことになるとそこで落ち込み人間形成のところで躓くのではないかと。ただし、家庭によってはそういうクラスを求められるところもあるので3、4、5歳児でクラスを作るならそういうのを求める親からはありがたいと思う。

◆なでしこ園（児童発達支援センター）の隣にこども園があり、10人ほど並行通園で週3、4回程度通園されています。3歳児くらいから通つていられている。3歳児くらいから活動や行事等で集団になじめない、友達同士の

活動のなかで課題が見えてくる。親御さんへの伝えた方の難しさもあるが、工夫しながら乗り越えれば、子どもたちはなでしこ園に来て楽しいと言う。やはり、先生方が個別に関わってくれて自分に言われていることがわかり、次の見通しがたえられるという体験が、子ども自身実感する。だから楽しいということになる。5歳児から1年間だけの療育というのはかなり難しいという実感を持っている。できるだけ早くなでしこ園につながっていただき支援につなげていく。保護者の理解は難しいが、最初はこども園の先生に勧められるがまま行ってみると、子ども自身が明日もなでしこ園に行きたいとなる。保護者に対しても子どもさんの発達の課題について個別にお話ができるし、子どもがなでしこ園で楽しい時間を過ごしていることを実感していただけるようになる。かなりの数の療育機関ができていますが、児童発達支援事業所等においてそれぞれ違いがあり、平均的な療育をしている訳ではないが、そういう機関との連携は必要である。こども園では環境的にも人員的にも知識的にも技術・スキルのにも難しいのでなでしこ園がお手伝いしている現状。

◆年齢を問わずニーズがあれば、そのような少人数支援クラスをつくるのもよいのではないかと受け止めている。学校へつなぐ幼小連携の意味を込めて、また、5歳児が学校への就学の意味を込めての就学支援クラスであれば、設置するのもよいのではないか。

◆当事者の親の意見。子どもは今3歳で、障害があると話せるようになるまで3年かかった。いきなりつきつけられると受け入れられない。実際言葉にする際は、保護者の精神衛生面の配慮が必須になると思う。可能であれば心理士の先生や、カウンセラーの先生と連携を図り、手厚いケアが実現出来ると市立幼稚園の新たな特色になるのではないか。特別な支援を要する子どもだけを対象にすると壁ができるので、対象者だけでなく希望者を募集して、習い事的な雰囲気です学への準備のような形で支援をすると、保護者が精神衛生のバランスを崩すことなく支援につながるのではないか。

◆多様な支援体制の充実については市立ならではのできることを検討していただければと思う。学校へのアプローチについて、例えばアプローチカリキュラムの充実などを市立幼稚園として示していただけることができると思う。